

# カサゴ種苗8000尾放流

横須賀西部振興事業団

## 地元小学生もお手伝い

【横須賀】神奈川の横須賀西部水産振興事業団（福本憲治理事長）は9月24日、JF横須賀市大楠漁協とJF長井町漁協の地先に各4000尾、合計8000尾のカサゴ種苗を放流した。横須賀

市大楠漁協地先の岸壁では、地元大楠小学校3年生80人が参加した。

種苗は神奈川県栽培漁業協会が種苗供給事業として生産業者から購入、同事業団に供給した体長平均7センチの稚魚。放流に

先立ち同協会は今井利為専務が、栽培と養殖について「カサゴは仔魚で生まれ「ことなど



「大きくなって戻ってき」と声を掛け放流する児童

を説明。児童らは小さなバケツに入れてもらった稚魚を岸壁から「大きくなって戻ってきて」と声を掛けながら放流した。

質疑応答では、児童から「放流したカサゴの色が違う」「放流後のカサゴの移動とすみかは」「仔魚で生まれるのはなぜ」「カサゴの種類は」などと質問。

今井専務は「環境に合わせて体の色を変える」「近くの岩場に移動しむ」「卵で生まれる魚は数十万尾以上だが、仔魚で生まれるのは数万尾。生き残りがよくなるため」「ユメカサゴ、カサゴモドキなどもいるがきょう放流したのは本当のカサゴ」と丁寧に説明した。このあと活魚運搬車で長井町漁協地先でも種苗を同漁協所属の漁業者らが協力し放流した。